**「敗血症性DICに対する治療効果に関する多施設共同後ろ向き観察研究」へのお誘い**

皆様

北海道大学病院　先進急性期医療センターの早川峰司です

国内でのDICに対する認知度は高く、治療に積極的な施設も多く存在しますが、治療に関する国際的な報告はあまりありません。また、海外でのDIC治療薬に関する大規模な前向き研究は、いずれの報告も対象がDICではなく、敗血症とされていて、敗血症性DICに対する治療効果をは未知のままです。今回、DIC治療を積極的に施行している施設だけではなく、DIC治療を実施していない施設も含めた多施設でデータを収集しDIC治療の有効性を検討してみたいと思い、お誘いのメールとなりました。

対象は、敗血症性DICではなく、重症敗血症（severe sepsis）としています。DICの治療を行わない施設は、DIC診断も行わない可能性があるからです。目標症例数は2000症例以上！「そんな無茶な、、、」と思う方もいるかもしれません。ですが、救急・集中治療に熱心に取り組んでいる施設なら、月に2～3例程度のsevere sepsisは経験するでしょう。そうすると、調査対象の3年間で100例程度にはなります。20施設に参加していただければ、軽く2000症例は超えます。DICの治療効果だけではなく、様々な検討が可能です。

また、参加いただく際の手間は、可能な限り減らしました。データ登録はエクセルベースで行いますが、皆様の施設の検査データなど、紙でお送りいただければエクセルへの入力は可能な限り当方で行います。収集項目も厳選しています。

本研究では、皆様が参加頂いた際のメリットも明確にしました。

1. 希望者には収集した全てのデータをお渡しします。テーマが重複しないように、一定のルールは定めましたが、比較的自由に解析・論文化を行って頂くことが可能です。
2. 予算の都合上、額は決定していませんが、提出症例数に応じて研究協力金を各施設にお支払いします。
3. 事前設定したテーマの論文化の際に、ご協力頂いた皆様も共著者として掲載させて頂きます。

少しでも、興味をもたれた方は早川（mineji@ddream.com）まで御連絡ください。突っ込んだ話でもOKです。また、詳しい資料は、JSEPTICの臨床研究委員会のページ（<http://www.jseptic.com/rinsho/>）に公開してあります。